

前回検討委員会からの整理

～ 目 次 ～

1. 第2回検討委員会コメントサマリー

○全体再編計画（案）に関する主なコメント

- 世界の人達に対し発信する、東京の次のシティホールは何かというメッセージは非常に重要であり、英語でも伝わることを考えた方が良い。（岸井会長）
- 「パーク」が今回検討している要素を包み込む言葉として適切か疑問に感じた。例えば、丹下先生が名付けた「都民広場」はそのままの名称を残し、コンセプトとしてプラザという言葉を用いる案は考えられる。（坂井委員）
- 「ライフスタイルイメージ」について、インクルーシブな視点で人物像を広げ、色々なニーズに応えることも想定したイメージづくりができると良い。（坂井委員）
- 都庁周辺から生み出されるものには、「新規性」「先進性」「多様性」があり、加えて人々がこの場所で「混在性」を持ち、進化していけることが重要。様々な主体が協力し、成長していける基地にできれば良いが、そのためには多様性を創発する仕掛けが必要。（田中里沙委員）
- アーバンロビーは、1階レベルでは、11号街路下及び第一庁舎・第二庁舎、2階レベルでは、第一庁舎・第二庁舎、ふれあいモール、新宿中央公園側の屋外空間をアーバンロビーと捉え、議論できると良い。（田中友章副会長）
- 足元回りのセキュリティのかかっていない空間を如何に再構成し、場合によっては平日・休日のように時間帯にあわせて、モードを変えながら、色々な形で使ってもらえる空間をどのように作っていくかということが、大きな命題である。（田中友章副会長）
- 都庁にあるコミュニケーションラボとして、都庁が市民に提供すべき情報・体験は何かを考え、民間街区に取組を促すメッセージを発信できると良い。（岸井会長）
- 全体的に都民が使う機会を増やす必要があるのではないか。例えば、都庁ではスタートアップ支援等のイノベーションに関わる事業に取り組まれているが、それらの拠点が低層階にあると良い。（泉山委員）
- 通信がまちの中に行き届き、意識せずとも使える環境になっていることを、再編計画の考え方に入れて欲しい。（デジタルサービス局 つながる東京整備担当部長）
- 空間整備だけでなく、サービスについても考える必要がある。適切なサービスを継続していくための主体のあり方も議論すべきテーマであると思う。（新宿副都心エリア環境改善委員会 技術担当理事）

1 第2回検討委員会コメントサマリー (2/2)

○空間別再編計画(案)に関する主なコメント

◆都民広場・4号街路沿い

- 都民広場は、この大きさの空間を持ち続けるべきか、集会機能に使う空間を1/3程度に絞り込み、残りの空間を異なる用途の空間にすることを考えるか、大きな分かれ道になる。集会目的の空間は、ここまで必要ないと考える。(田中友章副会長)
- 都民広場について、もっと植栽やベンチがあってもよく、植栽で日陰を作るぐらいのことが必要ではないか。人々の滞在を生み出すには、芝生化するだけでなく、植栽や椅子・ベンチといった拠り所が中心部にはないといけない。(泉山委員)
- 議会棟はもっとオープンになると良い。低層部と都民広場が直接アクセスできると良く、とちよう保育園も子供の活動が垣間見えても良いと感じた。(坂井委員)
- 議会レストランは、夜の使われ方も重要である。都民広場と併せ、夜に飲食ができる場所を作っても良いのではないかと。(泉山委員)
- 4号街路沿いは、新宿駅から都庁に来る場合のメインの動線であり、アプローチの顔となることを意識して整備すると良い。(田中友章副会長)
- 4号街路の新しいモビリティの停留所の位置等、都市基盤側の検討も横目に見ながら都庁周辺の検討を進めてほしい。
(建設局 企画担当部長)

◆ふれあいモール

- ベンチ・テーブル等、色々なものを設置して、憩える場所を作れると良い。(田中里沙委員)
- 都庁職員がずっと自席でばかり昼食をとるようでは、クリエイティビティがなくなる。多くの民間企業で、もっと会話をし、様々な価値観に触れ、そこから新しい事業を考えるということに取り組んでいるので、都庁職員も先進的に取り組めると良い。(田中里沙委員)
- 第一庁舎・第二庁舎・新宿中央公園からアクセスしやすい、ポテンシャルの高い場所であり、多目的に利用される場にできると良い。低層部にウェルビーイングの向上に寄与する空間を設け、都庁職員のみならず、多様な人々が空間や時間をシェアすると良い。(田中友章副会長)

◆11号街路下

- 都庁舎に入る玄関口となっている11号街路下が暗く、茫漠とした空間で良いのか、真剣に考えるべき。また、11号街路下は、4号街路から南北に延びる軸をはっきり意識するべき。(岸井会長)
- 11号街路下の計画案は、明るい空間とすることが重要であると感じた。(泉山委員)
- パビリオンのようなものを複数配置し、パビリオンに様々な情報発信機能を設け、そこから明かりが漏れる空間を巡り歩いていくことで、楽しみながら移動できるという可能性もある。(田中友章副会長)